

夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議 議事要旨

会議名	第4期夢育て・たちかわ子ども 21 プラン推進会議（第3回）
日時	令和4年3月17日(木)18時30分～20時30分
出席	山中ゆう子、安部芳絵、段城孝彦、原由希、井村良英、小畑くるみ、平野静香、小松佳世子、坂下香澄、園田智恵、伊東祐也、筒井夢人、松本零、石田千紘、伊藤梓、大河原風臥、葛野智哉、松村咲 [事務局] 横塚子ども家庭部長、五箇野子育て推進課長、平川、野島
欠席	米原立将、畔田世紀子、唐亀康司、佐藤邦彦、黒田淑美、田口美幸、矢島重治、栗原一雄、鈴木正明
配布資料	立川市子どもの自己肯定感などに関する調査報告書
会議場所	立川市役所 210 会議室

1. 立川市子どもの自己肯定感などに関する調査報告書について

(1) 事務局より報告

- ・ 調査の目的、調査の対象、前回調査との比較や、小学5年生と中学2年生で差があった設問を報告した。

(2) 委員からの質問

- ・ 学習用タブレットの調査であるが、学校に来ていない子どもへも調査ができたのかとがの質問。事務局からは、学級活動の中で回答フォームを知らせていて、学校がどのような説明を行っているかによって違いはあると考えていると回答。

(3) 委員からの意見・感想

- ・ 自分のことが好きだという質問について、小学校5年生は肯定的なグループが圧倒的にパーセンテージは大きかったが、中学2年生になると否定的に思う方が多くなっている。自分のことが好きだという環境を作っていくことが大事。
- ・ 小学5年生の回答を見ると、意外と家族の関係やコミュニケーションが取れていると感じた。一方、自由記述では自分なりの考えや学校、友達、いじめについては気になる内容が見られた。ここで書かれた内容を深掘りしていくことが大切でないか。そのことが、プランの基本理念にもつながる。中学生の自由記述も同様。
- ・ 自由記述を読みながらいろいろ考えさせられた。情報が多き社会なので、羨ましいと思う反面、生きていくのがしんどいのかなというのを感じた。
- ・ 他者や社会に対して何かしたいという子どもたちがいるものの、社会や地域がそれに応えられているのか疑問。また、大人も子どもの権利のことを知る必要がある。自由記述についても率直な意見が出ているので、受け止めていかななくてはならない。
- ・ ①小学5年生で肯定的な回答が増えている。委員の所属での所感が聞きたい。②自由記述について、差別とはどんな差別があるのか知りたい。それによって、大人も対策が可能になるのではないか。③コロナ禍で行事等が中止となっているが、子ども目線も大切にして、どうすれば実施できるのか大人が考えていかなければならない。②に関して、子ども委員から差別と感じる場面について言及。子どもだからだめと大人から言われる

こと、男女差別をする先生がいたり、先生のお気に入りによって左右されること、子どもだから知らないとの理由で聞いてもらえないこと、自分の体の特徴で嫌なことを言われることが挙げられる。また、差別については、個性と紙一重であり、その人の特徴を周りからどう捉えてどう表現したらいいのかで差別は生まれるのではないかとの意見。

- ・ 保育園現場では、卒園式で自分のいいところを口に出して言うようにしている。自分を大事にすることにつながっているのではないかと期待している。今回の調査を見ても、そうなんだという実感。日本は諸外国と比べて、自己肯定感が低いと聞いているので、立川の子どもたちはいいのかなとも思う。
- ・ 若者支援を行っているが、自分が接している高校生や若者とは違う結果に見える。置かれている環境で自分がどういう状況なのかというのを分からないままに、誰かのためにやりたいとかと思っていると回答している人もいるかもしれない。誰かのために何かをしたいという項目について、否定的な回答の小学5年生が6%、中学2年生はその倍になっていることに着目している。経験的には、自分のことが大事にできなくなって、他人のことが大事にできなくなる流れと認識しているので、大人として何ができるか考えている。
- ・ 自己肯定感調査の報告書について、「自分は目標に向かって努力している」のポイントが下がっているのが気になった。先が見通せない中で、目標が見えづらくなっているからなのかと思う。
- ・ 発達障害のあるお子さんのいる家庭は、子どもも親も自己肯定感が低い。コロナ禍により、その傾向が増している。報告書にはいい結果も出ているが、この調査でつかみ切れていない子どももいることを知ってほしい。
- ・ 自己肯定感について、二極分化していると思う。前向きな子どもは、調査に答えるがそうでない子どもは見向きしない。そこを織り込む必要がある。また、子どもの権利について、学校でどのように学んでいるのか知りたい。子ども委員からは、中学3年の公民の授業、小中学校で触れる機会がなく塾の社会の勉強で習った、小学生のとき子どもの権利について書かれている本を読んだ、高校2年の現代社会で少し触れた、しっかり知ったのは中学からとの回答があった。
- ・ 子どもの権利については、子どものころは聞いたことがなく、道徳の授業などで見聞きする程度だった。報告の自由記述について気になる意見は、親の自己肯定感の低さが子どもにも表れているのではないか。
- ・ 大人が子どもの権利について触れる機会がなく、子どもたちも学ぶ機会にバラツキがある現状では、ほとんど全ての市民が知らないといっても大げさではない。
- ・ 子どもたちが誰かのために何かをしたいとか、社会の役に立ちたいと思っている積極的一面と、周りから自分は必要とされていないという消極的な一面を持ち合わせている印象。積極的な一面を伸ばすには、ボランティアといった場の提供や、ほめることが大切であると思った。調査の設問で「いじめ」という言葉があるが、子どもの世界ではいじめがあることが前提になっているように見える。
- ・ 学校で扱っている道徳の教科書の読み物が、権利と義務が対になって表現されている。義務を果たして権利が与えられるような指導になるのではないかと危惧。
- ・ 権利は人に、義務は国家にあるので対ではない。子どもの権利について、教職員課程の

カリキュラムに子どもの権利条約は含まれていない。ここに教員が教えられない現状がある。

- ・ 報告書については、個々の数値を見るより自由記述も含めて総合的に見ていくことが大事である。

(4) その他

- ・ 報告書の結果を子どもたちに伝えられるよう概要版を作成してほしい。
- ・ 井村委員より、「多摩市子ども・若者の権利を保障し支援と活躍を推進する条例」の紹介。おおむね30歳代までの市民を子ども・若者ととらえている。

2. その他

(1) 事務局より報告

- ・ 9月の「こどもとおとなのはなしあい in 市議会議場」で提案が採用されたグループの活動について報告

(2) 委員からの報告

- ・ 園田委員よりたまがわ・みらいパークの活動報告。1/30のものづくり会はコロナで中止。来年度も6月にたまがわ・みらいパークキャラバン隊 in 立川市役所を実施。
- ・ 坂下委員より3/21「冒険遊び場」オンライン講演会実施。

(3) 次回会議

- ・ 事務局より、次回日程は追って連絡する。
- ・ 前回議事録と議事概要は、メールにて確認依頼させていただく。